

新旧対照表

(注) アンダーラインを付した部分は改正部分である。

改正後	改正前
<p>別冊</p> <p>酒税法及び酒類行政関係法令等解釈通達</p> <p>第2編 酒税法関係</p> <p>第3条 その他の用語の定義</p> <p>(共通事項)</p> <p>1～4 (省略)</p> <p>5 酒類の原料物品等の定義</p> <p>法、令及び規則に規定する「ぶどう糖」、「水あめ」、「有機酸」、「有機酸の塩類」、「アミノ酸」、「アミノ酸の塩類」、「糖類」、「でん粉質物」、「でん粉質物分解物」、「たんぱく質物」、「たんぱく質物分解物」、「無機酸」、「無機塩類」、「色素」、「粘ちよう剤」、「核酸分解物」、「核酸分解物の塩類」、「アルコール含有物」、「含糖質物」、「香味料」、「転化糖」又は「果糖」とは、それぞれ次に定めるところによる。</p> <p>なお、これらの物品が化学的合成品である場合には、その使用に当たって食品衛生法の適用を受けることに留意する。</p> <p>(1)～(12) (省略)</p> <p>(13) 「無機塩類」とは、例えば、炭酸カルシウム、食塩、<u>リン酸二水素カリウム</u>、<u>リン酸水素二カリウム</u>、<u>硫酸アンモニウム</u>のように無機酸がカルシウム、ナトリウム、カリウム等と結合したものをいう。</p> <p>(14)～(22) (省略)</p> <p>6 (省略)</p> <p>7 酒類の原料として取り扱わない物品</p> <p>次に掲げる物品は、酒類の原料として取り扱わない。</p> <p>なお、その使用について食品衛生法の適用を受けることに留意する。</p> <p>(1) (省略)</p> <p>(2) 発酵を助成促進し又は製造上の不測の危険を防止する等専ら製造の健全を期する目的で、仕込水又は製造工程中に加える必要最小限の次の物品</p> <p>イ (省略)</p> <p>ロ 塩類 (食塩、<u>リン酸二水素カリウム</u>、<u>リン酸水素二カリウム</u>、<u>リン酸二水素カルシウム</u>、<u>リン酸二水素アンモニウム</u>、<u>リン酸水</u></p>	<p>別冊</p> <p>酒税法及び酒類行政関係法令等解釈通達</p> <p>第2編 酒税法関係</p> <p>第3条 その他の用語の定義</p> <p>(共通事項)</p> <p>1～4 (同左)</p> <p>5 酒類の原料物品等の定義</p> <p>法、令及び規則に規定する「ぶどう糖」、「水あめ」、「有機酸」、「有機酸の塩類」、「アミノ酸」、「アミノ酸の塩類」、「糖類」、「でん粉質物」、「でん粉質物分解物」、「たんぱく質物」、「たんぱく質物分解物」、「無機酸」、「無機塩類」、「色素」、「粘ちよう剤」、「核酸分解物」、「核酸分解物の塩類」、「アルコール含有物」、「含糖質物」、「香味料」、「転化糖」又は「果糖」とは、それぞれ次に定めるところによる。</p> <p>なお、これらの物品が化学的合成品である場合には、その使用に当たって食品衛生法の適用を受けることに留意する。</p> <p>(1)～(12) (同左)</p> <p>(13) 「無機塩類」とは、例えば、炭酸カルシウム、食塩、<u>酸性りん酸カリウム</u>、<u>硫酸アンモニウム</u>のように無機酸がカルシウム、ナトリウム、カリウム等と結合したものをいう。</p> <p>(14)～(22) (同左)</p> <p>6 (同左)</p> <p>7 酒類の原料として取り扱わない物品</p> <p>次に掲げる物品は、酒類の原料として取り扱わない。</p> <p>なお、その使用について食品衛生法の適用を受けることに留意する。</p> <p>(1) (同左)</p> <p>(2) 発酵を助成促進し又は製造上の不測の危険を防止する等専ら製造の健全を期する目的で、仕込水又は製造工程中に加える必要最小限の次の物品</p> <p>イ (同左)</p> <p>ロ 塩類 (食塩、<u>酸性りん酸カリウム</u>、<u>酸性りん酸カルシウム</u>、<u>りん酸アンモニウム</u>、<u>硫酸マグネシウム</u>、<u>硫酸カルシウム</u>、<u>メタ重</u></p>

改正後	改正前
<p><u>素二アンモニウム</u>、<u>硫酸マグネシウム</u>、<u>硫酸カルシウム</u>、<u>メタ重亜硫酸カリウム</u>、<u>亜硫酸水素カリウム液</u>、<u>塩化カルシウム</u>、<u>塩化マグネシウム</u>、<u>硝酸カリウム</u>、<u>硫酸アンモニウム</u>)</p> <p>ハ～ニ (省略)</p> <p>ホ 発酵助成剤 (不活性酵母、酵母エキス (酵母自己消化物を含む。)、酵母細胞壁、<u>リン酸二水素アンモニウム</u>、<u>リン酸水素二アンモニウム</u>、<u>硫酸マグネシウム</u>、<u>硫酸亜鉛</u>、<u>チアミン塩酸塩</u>、<u>葉酸</u>、<u>パントテン酸カルシウム</u>、<u>ナイアシン</u>、<u>ピオチン</u>又はこれらで組成されるもの)</p> <p>へ～リ (省略)</p> <p>(3)～(8) (省略)</p>	<p><u>亜硫酸カリウム</u>、<u>塩化カルシウム</u>、<u>塩化マグネシウム</u>、<u>硝酸カリウム</u>、<u>硫酸アンモニウム</u>)</p> <p>ハ～ニ (同左)</p> <p>ホ 発酵助成剤 (不活性酵母、酵母エキス (酵母自己消化物を含む。)、酵母細胞壁、<u>りん酸アンモニウム</u>、<u>硫酸マグネシウム</u>、<u>硫酸亜鉛</u>、<u>チアミン塩酸塩</u>、<u>葉酸</u>、<u>パントテン酸カルシウム</u>、<u>ナイアシン</u>、<u>ピオチン</u>又はこれらで組成されるもの)</p> <p>へ～リ (同左)</p> <p>(3)～(8) (同左)</p>
<p>第8条 酒母等の製造免許</p> <p>1～2 (省略)</p> <p>3 現地破碎に係るもろみの製造免許の取扱い</p> <p>果実酒等原料用ぶどう果を果実酒等製造場以外の場所で破碎(以下「現地破碎」という。)しようとする者に対するもろみの製造免許については、次の(1)～(3)に該当する場合に限り付与する。ただし、もろみの製造免許には、条件を付すことができないので、(1)のハ及びニ、(3)のロ、並びに(4)についての誓約書の提出がある場合に限るものとする。</p> <p>(1)～(2) (省略)</p> <p>(3) 現地破碎の方法等</p> <p>現地破碎は、次により行われる場合</p> <p>イ (省略)</p> <p>ロ もろみに対しては、破碎後直ちに<u>メタ重亜硫酸カリウム</u>、<u>亜硫酸水素カリウム液</u>、<u>無水亜硫酸</u>又はこれらの水溶液を添加させることとし、その添加量は、もろみの発酵が抑制される程度のものである。</p> <p>ハ (省略)</p> <p>(4) (省略)</p>	<p>第8条 酒母等の製造免許</p> <p>1～2 (同左)</p> <p>3 現地破碎に係るもろみの製造免許の取扱い</p> <p>果実酒等原料用ぶどう果を果実酒等製造場以外の場所で破碎(以下「現地破碎」という。)しようとする者に対するもろみの製造免許については、次の(1)～(3)に該当する場合に限り付与する。ただし、もろみの製造免許には、条件を付すことができないので、(1)のハ及びニ、(3)のロ、並びに(4)についての誓約書の提出がある場合に限るものとする。</p> <p>(1)～(2) (同左)</p> <p>(3) 現地破碎の方法等</p> <p>現地破碎は、次により行われる場合</p> <p>イ (同左)</p> <p>ロ もろみに対しては、破碎後直ちに<u>メタ重亜硫酸カリウム</u>、<u>無水亜硫酸</u>又はこれらの水溶液を添加させることとし、その添加量は、もろみの発酵が抑制される程度のものである。</p> <p>ハ (同左)</p> <p>(4) (同左)</p>